

化学療法の副作用対策 ～手のしびれの新たな予防方法～

化学療法は、脱毛、吐き気、倦怠感、手足のしびれ、白血球減少による発熱などの副作用が出現します。それらの多くの副作用に対して、有効な薬が開発されて、患者さんの苦痛がかなり少なくなってきました。しかし、手足のしびれについては有効な予防方法、治療方法がありません。

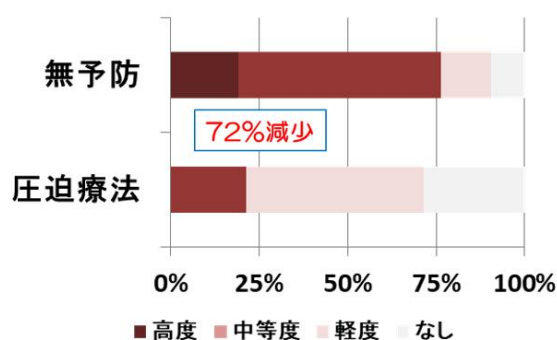
当科で開発し、当院と京都大学関連の病院とで行った第2相臨床試験の結果、小さ目のサイズの手術用手袋を、抗癌剤（アブラキサン）投与前後の90分間だけ装着することで、手のしびれが下図のよう中等度以上のしびれを72%減少させることがわかりました。その有効性、安全性の検証試験（第3相試験）では、本圧迫療法は副作用もなく、前回の試験と同様のしびれ抑制効果があることが示されました。それぞれの結果は、2つの英文雑誌に発表しました。

この方法は手術用手袋を装着するだけであり、非常に簡単で有用な方法ですので、当院の通院治療センターでは、しびれを起こすタキサン系抗癌剤の使用するがん患者さん（乳がん以外の患者さんも含めて）で、本圧迫療法を希望される患者さんには、本圧迫療法の予防方法を実施しています。



タキサン系抗癌剤投与中とその前後の30分間のみ装着

末梢神経障害の発現率



英文雑誌 Breast Cancer Research and Treatment に発表（2016年）と The Breast（2019年）に発表